

# 子育て・教育の充実と負担の軽減をめざして。

よしとみは松山市議会公明党議員団の一員として、子育て・教育に関する様々な施策を推進してきました。その中から最近の取り組みをご紹介します。皆様のご意見・ご要望をお待ちしております。

## 社員の育児参加を応援する「イクボス」の普及

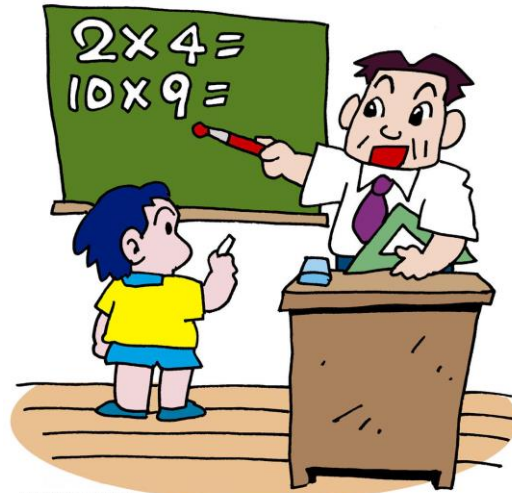


平成28年11月、松山市では100を超える団体・企業の管理者が一堂に会し、松山イクボス合同宣言式が開催されました。

安心して子どもを産み育てるためには、ワーク・ライフ・バランス(仕事とプライベートの両立)を推進し、働き方改革や男性の育児参加を推進する必要があります。その要となるのが男性の社員や部下の育児参加に理解があり、積極的に支援する経営者や上司＝「イクボス」です。

公明党議員団は議会質問などを通じてイクボスの普及を推進しています。

## 「松山市教育研修センター」開設



平成28年4月、市立小中学校約2,500人の教職員の研修や研究の拠点として「松山市教育研修センター」が開設されました。教育課題の分析・対策と教職員の能力向上のために、学校・センター、そして隣接する愛媛大学が連携し、現場に基づいた研修・研究を行います。公明党議員団は松山の特色ある教育をめざし、議会質問などで教育研修センターの創設を求めてきました。



## 島しょ部から市内の高校に進学する生徒に 住居費の補助制度を創設

松山市は平成26年に「里島高校生修学支援補助金制度」を創設。市内の高校に進学するため実家のある島を離れて生徒がアパートなどで生活する場合、市はその保護者に対して生徒1人当たり月1万5,000円を上限に3年間支給します。こうした経済的支援により希望する高校で学べるようになり、関係者から好評を博しています。公明党議員団は離島から市内高校に進学した生徒の保護者の声を代弁して、住居費補助制度の創設を求めてきました。

## 「放課後児童クラブ」が拡充

放課後の短い時間は児童にとって楽しみな時間。そんな、大切な時間を過ごす場所の一つに「放課後児童クラブ」があります。

松山市の放課後児童クラブは、平成21年に45クラブ、定員2,840人でしたが、29年には102クラブ5,076人に拡充。対象学年も小学3年生から6年生までに拡充され、設備や運営の基準も明確化されました。

公明党議員団は保護者や関係者からのご要望を受け、放課後児童クラブの質の拡充を粘り強く推進してきました。

## 学習支援事業「土曜塾」の 開設と拡充



松山市では平成24年度から、低所得世帯の中学生を対象に高校進学をサポートする学習支援事業「土曜塾」を実施。しかし、開設は市中心部の1か所のみで遠距離からの参加は難しく、参加できる生徒は限られていました。

公明党議員団は土曜塾の開設・増設を推進し、平成29年度に2か所目が開設されました。

## 「ブックスタート」始まる



松山市では平成27年から、出生届の際に絵本を1冊プレゼントする「ブックスタート」が開始されました。

絵本を介して赤ちゃんに心触れ合うひと時を持つことができ、お母さんたちにも大変好評です。

公明党議員団は読み聞かせの普及を推進するとともに、議会質問や予算要望などを通じ、ブックスタートの導入を粘り強く求めてきました。

## 「病児・病後児保育」の送迎サービス導入

松山市では平成28年12月から病児・病後児保育施設2か所において、就業中の保護者に代わって送迎サービスが行えるようになりました。

子育て勤労世代の一番の悩みは、保育園や学校からの急な「お迎え」の電話。「市が実施している病児・病後児保育施設において送迎サービスができないものか。」公明党議員団は働くお母さんの声を代弁して、議会質問を通じて市に提案していました。



## 子ども・子育て施設開所式



## 市立小中学校にエアコン設置

平成29年、松山市立中学校の普通教室にようやくエアコンが設置されました。今年度・平成30年度は市立小学校への設置が進められています。

昨今の夏の暑さは尋常ではなく、学校における熱中症対策は急務となっています。公明党議員団は多くの児童・生徒、保護者の声を受け、学習環境をもっと快適にするために小中学校普通教室へのエアコン設置を訴え、民間資力を活用した設置費用の削減を提案してきました。



## 「5歳児相談」の導入

松山市はこれまで1歳6か月児と3歳児の健診を行っていましたが、就学前児童の発達上の問題を早期に発見して適切な支援を行うため、平成29年6月から「5歳児相談」を実施。公明党議員団は就学直前の5歳児健診の有効性を訴え、議会質問などで取り上げてきました。